

2024年10月17日(木)

報道関係者各位

オリザ油化株式会社

**2024年新製品「さくら乳酸菌<sup>®</sup> (桜の花由来乳酸菌)」の新差別化ポイントを初公開！****ーフェムケアにつながる EMT 抑制作用&桜の花エキスとの相乗効果ー**

オリザ油化株式会社(本社:愛知県一宮市,代表取締役:村井弘道,以下「オリザ油化」)は『桜』をテーマにした素材第二弾として、桜の花から発見された「さくら乳酸菌<sup>®</sup>」を今秋の食品開発展 2024 (10月23日～25日:東京ビッグサイト)で上市します。(ブース番号:Hi エリア 2-127)

この新製品上市に関するリリースは先般配信させていただきましたが、この度、上市を目前として**更なる追加データとして EMT 抑制作用(月経不快症状の原因抑制)&桜の花エキスとの美容作用における組み合わせ効果を見出しました**のでお知らせいたします！

さくら乳酸菌<sup>®</sup>

今回上市する新製品「さくら乳酸菌<sup>®</sup>」は、長年に渡るスクリーニングの結果、しだれ桜の花より発見した乳酸菌(*Lactobacillus paracasei* shidare 株)について優れた生理活性機能を見出し、当社の抗糖化作用を訴求する主力製品「桜の花エキス」に次ぐ桜をテーマにした素材第二弾です。当社では、既に取得済みの機能性データとして、①整腸・便秘改善作用、②免疫賦活作用、③美容作用、④エクオール産生促進作用 に関する研究結果を取得し、販売開始に向けた準備を進めて参りましたが、この度、**販売開始に先立ち更なる新データとして以下の2つの研究結果を取得し、特許を出願いたしました。**

**■追加取得した新データ****① EMT<sup>※1</sup>抑制作用(月経不快症状の原因抑制)**

- ・EMTを誘発させた細胞において、**濃度依存的な高い EMT の抑制効果**を確認。(図1)
- さくら乳酸菌<sup>®</sup>は**フェムケア作用として、月経不快症状の原因を抑制**することが示唆された。

※1 EMT :上皮間葉転換 (Epithelial-Mesenchymal Transition) という生体内現象。

臓器などの表面を覆う上皮細胞が性質の異なる間葉系細胞に変換されること。

子宮内膜症において活発に発生し、諸症状の原因になっている。

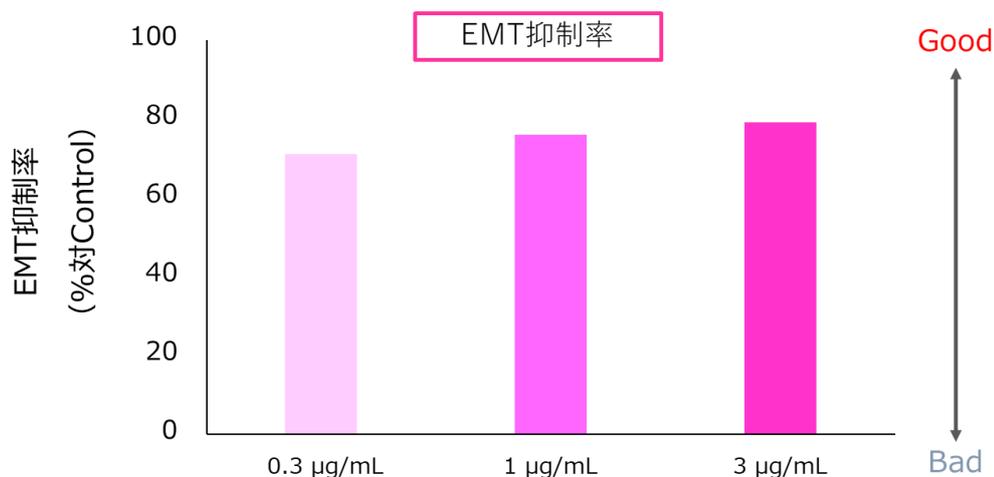


図 1. さくら乳酸菌®の EMT 抑制作用

② 桜の花エキスとの組み合わせ効果 (コラーゲン合成遺伝子発現促進)

- ・当社の抗糖化作用を訴求するオリジナル肌美容素材「桜の花エキス」と組み合わせることによって、**相乗的なコラーゲン合成遺伝子発現促進作用を発揮。**(図 2)
- ・有効的な組み合わせ比率は**桜の花エキス:さくら乳酸菌®=10:1**

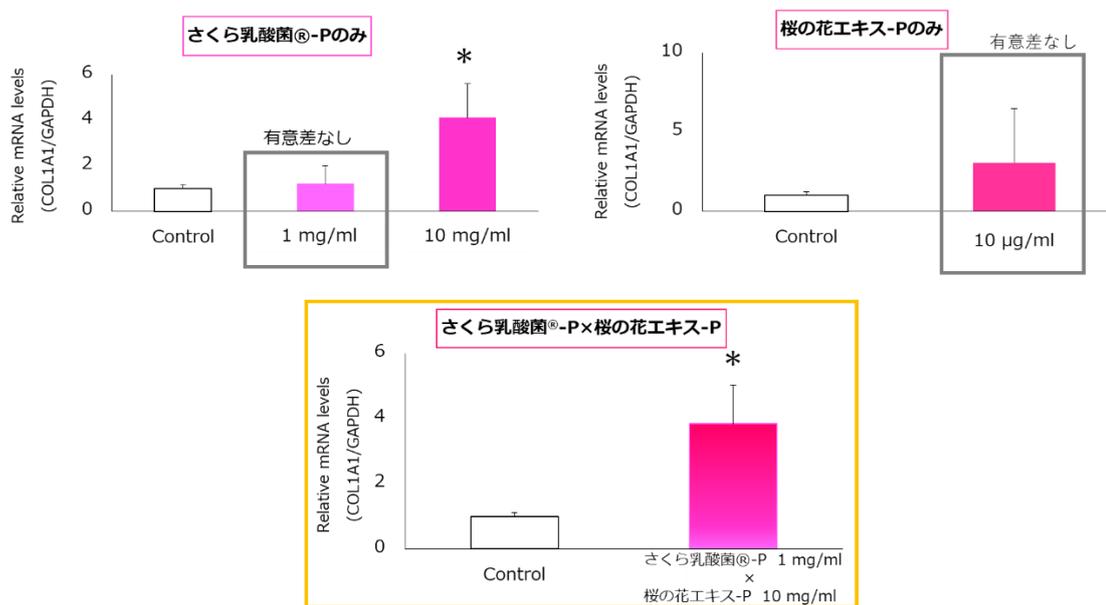
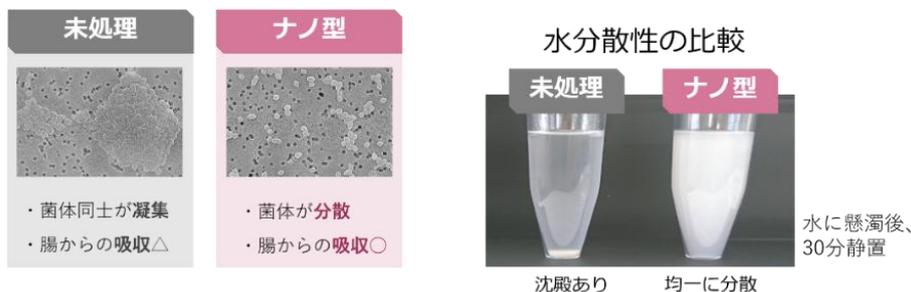


図 2. さくら乳酸菌®と桜の花エキスの組み合わせ効果

## ■さくら乳酸菌®の特長

- ✓ 国内のシダレ桜から採取された乳酸菌を素材化した粉末製品
- ✓ ナノ型乳酸菌※2であるため優れた吸収性・分散性が期待



- ✓ 加熱殺菌体であるため加熱工程のある商品でも配合が可能
- ✓ “整腸・便秘改善”だけでなく”美容作用”、“免疫賦活”、“フェムケア作用(エクオール産生作用、EMT 抑制作用)”など様々な機能性を取得済み
- ✓ 肌美容素材「桜の花エキス」と組み合わせることで効率的な美容効果を発揮

※2 ナノ型乳酸菌:特殊な製法で分散させ、乳酸菌体を凝集させることなく1マイクロメートル以下の粒度に処理した乳酸菌粉末で、腸からの吸収や水分散性が高められている。

食品開発展 2024 では、出展ブースおよび出展者プレゼンテーションにてさらに詳しい特長、機能性データを紹介いたしますので是非足をお運びください！

ブース番号: Hi エリア 2-127

出展社プレゼンテーション: 10月24日(木) 12:30~12:50 PK会場(西2ホール内)

以上